

2019年度 乳幼児教育振興特別事業  
全幼研ワクワクプロジェクト（香川支部）報告書

「心豊かにたくましく生きる幼児の育成  
ー幼児の発達にふさわしい環境を考えるー」

提出日 令和元年9月2日

- 実施日 令和元年7月23日（火）  
時 間 13時30分 ～ 15時00分
- 共 催 香川県幼児教育研究会
- 会 場 ミューズホール 高松市西宝町二丁目6番40号
- 参加者 香川県幼児教育研究会 会員 （計 382名）
- 講 師 所 属 國學院大学 人間開発学部 子ども支援学科  
職・名前 教授 神長 美津子 先生
- 内 容  
<テーマ>  
『主体的・対話的で深い学びにつながる保育をどう進めていくか』

◇参加者の感想や学んだこと◇

【子どもたちの生きる『未来』と幼児期において育みたい資質・能力】

- ・ 子どもたちの未来を想像し、生きる力を育てていくために必要な援助を明確にしていくことが重要であると実感した。深い学びにつなげるために子どもたちが「何を学ぶのか」ではなく「どのように学ぶのか」という育ちの過程をじっくりと読み取り、環境の再構成や援助の見直しをしていきたいと思った。
- ・ これから生きていく子どもたちの20年後30年後を見通して生きる力を育てていかなければならない。学校教育において育成すべき資質・能力の三つの柱を小学校と共通理解しながら少しずつ身に付けられるよう頑張りたい。
- ・ 質の高い幼児教育を実現するために、教師がしっかりと考えていくこと、子ども一人一人の未来を考え、日々取り組むことの大切さを感じた。生きる力を育てることは、幼児理解のもっとも土台である。幼児教育において育まれる資質・能力は遊びの中で育まれるものなので、子どもたちの言動をよく見てしっかりと幼児理解をし、環境構成や援助を見直さなければならない。

### 環境を通し行う教育を基本とする

- ・ 子どもが夢中になって遊べる環境を設定すること、幼児期にふさわしい発達を保障すること、子どもたちとの信頼関係を築き援助を重ねていくためには、教師の幼児理解が必要である。無意図的な側面もあるかも知れないが、そこで教師がどのように意味づけていくのか、ということに保育の本質を感じた。何気ないことでも意味を考えていかなければいけないことを改めて感じた。
- ・ 深い学びにつながるよう、子どもたちが経験していること、学んでいることを記録し、子どもはどのような思いでいるのか、また周りの環境に子ども自身が気付けるような関わり方や環境の工夫などが大切だと感じた。
- ・ 教師は子どものモデルとして、よき理解者として、共同作業者として、援助者として多様な関わりをすることで、子どもたちの深い学びにつながっていく。
- ・ 教材研究において何を準備するのかということも大切だが、具体的なイメージをわかすような教材を工夫し、子どもたちの生活の中で意味あるものを残しながら、子どもたちの活動に合わせて一緒に創っていくことが大切である。

### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教師に求められていること

- ・ 深い学びのためには心揺れ動く体験の連続が重要であり、そのためには体験がつながっていくように働き掛けていくことの大切さが分かった。体験があることで知識が裏付けられる。充実した体験ができるように教材研究を行い、環境の充実を図ることの必要性を感じた。
  - ・ 園での小さな体験や経験が将来の学びにつながる事が分かり、励みになった。子どもの発見や遊びが学びにつながるよう意味づけ、価値付けをしていくことが教師の役割だと感じた。また、遊びの様子だけでなく、どのように学んでいるのかという視点を記録していくことが大切だと思った。
  - ・ 子どもたちの学びには「できる」「わかった」ではなく、「なぜ?」「どうやって?」と考えていくことが深い学びにつながることを改めて学び、教師として幼児理解や援助の見直し等に向けて努力していかなければならない。
- まとめ（成果と課題）
- ・ 中央でご活躍の先生に来ていただき、大変実り多い会になった。また、講演内容をパワーポイントにまとめたり、項目ごとに図式化したりしてくださり、理解しやすかった。
  - ・ 質の高い幼児教育の実現に向けての教育の基本や、教師の役割について聞くことができ、参加者の理解の深まりにつながったように感じた。
  - ・ 昔から幼児教育の中心に携わっている神長先生の講演は、幼児教育の「不易と流行」について分かりやすく説明してくれるものだった。「基本」となることをしっかりと話して下さるので、若年教員には特に勉強になった。
  - ・ 今後も香川支部では研究テーマ「心豊かにたくましく生きる幼児の育成ー幼児の発達にふさわしい環境を考えるー」について教師の意図と子どもたちの思いのバランスを図りながら子どもたちと温かい関係でつながっていきたい。